記念館新聞

福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038-12
電話：0790-22-1000

松岡映丘「義経の院参」
（当館蔵）

開催中　企画展「松岡映丘画稿展」
～歴史に登場する人物～

記念館では、5 月 31 日（日）まで、松岡映丘画稿展を開催しています。

本展のテーマは、歴史に登場する人物です。

みなさんが教科書で学んだ歴史上の人物を描いた作品を紹介しています。

映丘がどのように人物が活躍した一場面を切り取り、描いているのかをご覧ください。

【作品紹介】「義経の院参」
義経が後白河法皇の御所に参ったようすを描いたものです。

五月節供（節句）

5 月 5 日は端午の節供で、子どもの成長を願う日となっています。

『年中行事図説』では、この日に武者人形を飾り、鯉のぼりを立てて男の子をはなやかに祝う習わしを紹介しています。

武者人形の始まりは、神が依りつくための形代（かたしろ）であると記しています。そして、のぼりは神を招くための招（お）ぎ代（よ）が変化したものか、神を迎えるために家に籠（こも）っていることを示すためのしるしから起こったものであると考えられています。

みなさんの家では、どのように 5 月 5 日を過ごしますか。

松岡映丘「兜」
（当館蔵）

「五月節供」（福岡）
『年中行事図説』
（岩崎書店、昭和 28 年）

名作著書紹介

故郷七十年を読む

先月号で紹介したように、鼎と國男は 15 歳差の兄弟でした。

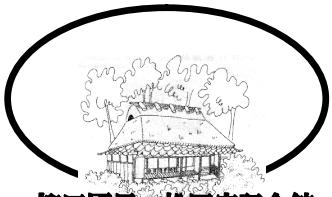
この 2 人は、ともに明治 34 年（1901）に 1 つの節目を迎えました。

鼎は、戸籍を辻川から布佐へ移しました。

鼎は当初帰郷する心づもりでいましたが、布佐が墳墓の地となりました。

一方、國男は柳田家に養子に入りました。『故郷七十年』には、「柳田家に入ったのは三十四年のことであった。（中略）柳田家は信州飯田の藩士であったので、公務を兼ねて父祖の故郷飯田に行」き、親類へあいさつをしてまわったとあります。

こうして、國男は松岡國男から柳田國男となり、以後 61 年間を過ごすことになりました。



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間
9 時～16 時 30 分
（入館は 16 時まで）

☆休館日
月曜日、祝日の翌日
12 月 28 日～1 月 4 日

☆入館料
無　料

館日記

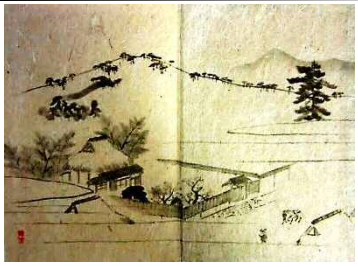
記念館では、このたび 36 冊の民俗学関係書籍の寄贈を受けました。

そのうちの 1 冊に柳田國男の著作である『退読書歴』がありました。

この本の見返しには、松岡映丘が描いた「生家」が使われています。

この絵は、國男が自分の生家を絵にしてでも残したいという気持ちから、弟の映丘に描いてもらったものです。

映丘は 4、5 歳までしか生家に住んでいなかったことから、大勢の人に聞いて回りながら描きました。ところが、國男は「似ても似つかない」生家になってしまったと、『故郷七十年』に記しています。



松岡映丘「生家」
柳田國男『退読書歴』（書物展望社、昭和 8 年）